

[[[[[[[[調査会ニュース Vol.77]]]]]](2004.3.5)

山本美保さんの消息確認に関する談話

必ずお元気な美保さんにお会いできると信じて活動してきた者として、このような消息がもたらされたことに強い衝撃を受けている。この間ご家族や支援者の皆様も再会を信じて尽力してこられたが、今回の結果にかかわりご迷惑をおかけしたことがあったとすればそれはすべて私たち調査会の責任である。

しかし、山本美保さん失踪については山梨県警の発表内容も含めまだ疑問点があまりにも多い。「自殺の可能性がある」との発表も、その根拠は示されていない。私たちが拉致の疑いが濃いと判断した要素の中で参考情報として考慮した目撃証言を除いては未だ否定されたものではなく、今後とも山本美保さんについては拉致の疑いが濃い事件として調査会としての真相究明を行っていく。

平成 16 年 3 月 5 日

特定失踪者問題調査会代表 荒木和博

山本美保さんと身元不明死体が一致したことにに関する疑問点

上記談話の疑問点でとりあえず整理したものを以下に発表します。

1. なぜいまの時点の発表なのか？

家族のDNA鑑定を行ったのは昨年5月、今回の遺体について遺留品の照会を県警から受けたのは昨年秋である。なぜ今の時期の発表になったのか。

山形県の遺体発見は昭和59年6月21日、柏崎で山本美保さんのバッグが発見された6月8日から2週間足らず(13日)であった。なぜ当時山形県警(酒田署)はこれに対して新潟県警(柏崎署)に照会をしなかったのか。遺体漂着なら、海流から考えて当然新潟方面から流れ着いたと考えるべきであり、照会してしかるべきではないか。

遺体の頭部に損傷がなければ、歯が残っていたはずであり、これまでも歯形を調べれば本人と確認できたはずである。事実、家族は搜索願を出したあと、不明死体の連絡が入るたびに確認に向いているが、歯形が合わなかったことで別人と判明している。この遺体についてはどうだったのか。

またバッグが美保さんのものであることは6月8日の時点ですでに分かっているはずだから、当然山梨県警にも照会されたと考えられるのではないか。

2. 自殺だと考えた場合の疑問

柏崎と遊佐町という、北朝鮮の上陸地点に関連しているのは、果たして偶然の一致か？

失踪後の電話は一体誰が何のためにかけたのか？ 3年6カ月後の電話では「美保でし

よ？ 元気？」という、かすかに「元気……」と答えたという。この他電話口ですすり泣く声や無言電話が続いた。

3．警察は北朝鮮との関連の疑いを持たなかったのか？

遺体が発見された山形県遊佐町は北朝鮮工作員の上陸地点。これに関して地元警察（届出のあった酒田署）が敏感だったと考えられる。遺留品のあった新潟県の柏崎に関しても同様。警察は北朝鮮との関連を疑っていたのではない、あるいは何かの事実を掴んでいたのではないか。

4．拉致の疑い

以上のことから考えると、単純に自殺と断定すべきではない。山梨県警察も「自殺の可能性はあるが、捜査を継続する」と見解を述べているように事件の可能性も考えられる。その中に拉致の可能性も否定できない。

山本美保さんのケースは、拉致の失敗ではないか。ちなみに元北朝鮮工作員安明進氏によれば、「拉致された人が抵抗した場合強烈に殴打され、死亡した人もいた」と言っている。その中には海中に遺棄された人もいるという。これにあたる可能性はないか。

また遺体漂着地点も工作員上陸地点であることから、あるいはその地（遊佐町海岸）を選んで遺棄したことも考えられるのではないか。

5．その他の疑問

足のサイズ…山本美保さんの足のサイズは 23 ~ 23・5（家族の記憶）しかし昨年秋この遺体について遺留品の照会を受けたとき家族が聞かされた足のサイズは 22cm だったという。しかも遺体は両太ももから下が切断されていたにもかかわらず足のサイズが分かったのか。

[[[[[[[[調査会ニュース Vol.78]]]]]]](2004.3.6)

デジャビュ

特定失踪者問題調査会代表 荒木和博

全くの思い過ごしでしょうが、私は山本美保さんの今回の件についてデジャビュ（既視感）を見ていたような気がしました。一昨年 9 月 17 日の外務省飯倉公館での出来事と今回のことが重なって感じられたのです。

公式の談話及び私たちの疑問点は既にニュースでお送りした通りですが、あらためて考えると 9・17 のときと今回はなぜか状況が良くにっています。

9・17 のときは正午頃に官邸から「8 件 11 人の消息を伝える。平壤とつながっている外務省でないといけないので飯倉公館に来て欲しい」との連絡があり、3 時に貸し切りバス（これも異常に手回しが良く、不思議でしたが）で飯倉公館に向かいました。このとき、家族に同行できたのは拉致議連では石破滋会長（当時）・米田健三副会長（当時）・平沢勝栄事務局長の 3 人。全員自民党で、幹事長である西村真悟衆議院議員（当時自由党）、事務局次長の松原仁衆議院議員（民主党）ら野党議員は同行を許されませんでした。それ以外は救う会全国協議会の佐藤勝巳会長と当時事務局長だった私だけでした。自民党議員だけだったことについての理由は飯倉公館に行った 3 人の議連役員はそれぞれ別々の理由付けをしていました。

北朝鮮側からの情報はこの日朝の時点で北朝鮮当局からもたらされていたのですから、結局「北朝鮮と直接つながる」というのは何の関係もないことでした。別にそれまで待機していた議員会館の別室で伝えても何の不都合もなかったのです。

しかも、既に言われているように、政府は確認もしていない北朝鮮の通知をそのまま事実として伝えました。横田さんのご両親と双子の弟さんには植竹外務副大臣がめぐみさんは死亡していたと伝え、「何度も平壤に確認しました」と言っていました。翌日になってそれは嘘で、何も確認していなかったことが明らかになりました。また、家族を隔離しておきながら、家族に伝えられる前からマスコミには「5 人生存、8 人死亡」という情報が平壤でリークされ、報じられていました。

今回、県警から DNA 鑑定情報が最初に家族に伝えられたのは 4 日の午後でした。そして、5 日夕、家族は県警の準備した場所で説明を聞きましたが、この場には家族の要請にもかかわらず山下滋夫本会理事ら、これまで山本美保さんの事件にかかわってきた人々は「捜査上の理由」ということで同席を許されませんでした。さらに県警は家族に対しお母さんが同席することを執拗に求めたそうですが、その一方で説明をしている間に一部マスコミは「山本美保死亡」を流していました（これもリークではないかという疑いすら感じられます）。また、鑑定に使った骨髄液は極めて少量で、今回の鑑定で使い果たしたのでもう鑑定はできないとのことだそうです。

警察が家族に説明した内容は私もまだ詳しくは聞いていませんが、果たして「捜査上の理由」で家族以外の人を（少なくとも同席が家族の意志であるにもかかわらず）排除する根拠になるものがあったのだろうかという疑問が残ります。

また、ある政府関係者はひと月程前、私に特定失踪者問題に関して「あまり拉致と断定してやり過ぎない方がいいですよ。拉致ではないと分かったときに色々あると思いますから」といった趣旨のことを伝えました。「具体的にはどういうことですか」と聞くと「山本美保さんのところなんかは非常に盛り上がっているし...」とのことでした。

さらに先日の拉致議連総会で6者協議の報告をした藪中外務省アジア大洋州局長は議員から何度も特定失踪者問題について北朝鮮に質したのかと問われましたが、直接は一切答えず、「5人の家族と政府認定の消息不明者の安否確認が際優先」とだけの回答でした。また、今回の警察の発表では根拠も提示されないまま「自殺の可能性はある」となっています。

このデジャビュ、おそらくは私の思い過ごしでしょう。しかし、1年半前に飯倉公館にいた者として、どうしてもひっかかることがあるのも事実です。一刻も早く全ての疑問が解明されるように切に願っています。

[[[[[[[[調査会ニュース Vol.79]]]]]]](2004.3.7)

1000 番台リスト等の追加発表について

以下の通り 1000 番台リスト（拉致の可能性が高い失踪者）及びゼロ番台リスト（現時点で拉致の可能性が完全には排除できない失踪者のうちご家族が公開を希望するもの）それぞれ若干名の発表を行います。1000 番台リスト発表者はこれまでゼロ番台リストで公開している方です。

日時 3月10日（水）14:00～

場所 友愛会館 1階A会議室

（港区芝公園 2-20-12 TEL 03-3453-5381）

発表の方法は従来と同様です。写真の公開と資料の配付を行います。

権革（コン・ヒョク）証言に対する現在の認識

専務理事 真鍋貞樹

新潟県で失踪した山本美保さん（当時、山梨県在住）について、山形県で発見された身元不明者の遺体が本人であると山梨県警が3月5日に発表した。そのため、「山本美保さんに似た女性を見た」との権革証言の信憑性が著しく失われる結果を招きつつある。しかも、山梨県警の発表の中には、この権革証言について二度触れ、彼の証言はウソであることを強調したものになっている。

もしその遺体が山本美保さんであることが真実であるならば、権革が我々調査会に寄せた数々の証言の信憑性も疑われる結果となる。そのことは、調査会の社会的信用性のみならず依然として消息が不明な特定失踪者の生命にも重大な影響を及ぼすことから、ここで改めて彼の証言について認識を示しておきたい。ただし、調査会内部においても、彼の証言の信憑性に対する評価には違いがあり、私の個人的見解として述べさせていただく。

第一 山本美保さんに関する権革の証言について

まず、調査会で山本美保さんを拉致と認定したのは、権革の証言があったためではなく、それまでの調査の蓄積からであり、尚且つ、重要な参考情報として権革証言が表れたからであったことを最初に述べておきたい。

権革は、山本美保さんについて下記のような証言をしている。「佐々木悦子さんと一緒に運動場にいた別の女性に似ている。その姿は何回か見た。その女性は肩ががっちりとし、バレーボールが好きだった。その女性は最近までピョンヤンに住んでいたが、現在は別の場所に移されている」というものだ。当該の女性について、権革は、「山本美保さんであるとまでの確証はないが、よく似ている」というものであった。つまり、権革は山本美保さんであるという断定をしていない。

もし、この佐々木悦子さんと一緒に居た女性が仮に山本美保さんでなくとも、別の日本人女性であるという可能性が残される。

第二 他の日本人の目撃証言について

権革は、その他にも日本人の目撃証言を行なっている。それらは、彼が実際に本人と接して名前まで特定したもの、彼が見た日本人に良く似ているが確証が無いというもの、そして他人からそうした日本人の情報を聞いたというもの、というように様々なレベルがある。したがって、彼の証言については、その全てが正しい、あるいは間違っている、というように単純に判断すべきではない。ところが、それらの証言が渾然一体となって評価されているために、彼が証言した一つの情報が間違っていれば、彼の証言の全てを否定する、という状況が生まれつつある。それでは、特定失踪者問題を解決していく可能性を狭くしてしまう。私の認識は、例え彼の証言の9割が間違っているとしても、1割が正しければ、その1割が重要である、というものだ。したがって、彼の証言への評価は個別の事案ごとにしていくべきだと考えている。

第三 他の脱北者の証言との整合性について

権革以外にも、脱北者の証言がいくつか明らかになっている。例えば、金国石（仮名）は、権革が目撃したと証言した斉藤裕さんについて、権革よりも細部にわたる証言をしている。金国石が調査会に対して斉藤裕さんの個人的な特性を証言した内容について、ご家族や友人に確認したところ、その全ての特性が一致していた。しかも、ご家族は知らない内容で、友人だけが知っている斉藤裕さんの特性についても証言をしている。こうした細部にわたる証言の全てがウソやデタラメと考えることは非常に難しい。したがって、権革による斉藤裕さんについての目撃証言の信憑性も高いと考えている。

第四 権革の経歴と彼の証言の信憑性について

権革証言の信憑性を疑わせる大きな根拠が、彼自身が語っている経歴にウソやデタラメがあるから、彼の証言はデタラメである。というものだ。確かに、脱北者は一般的にそうであるが、自分自身を大きく見せようとして誇張した内容を示すことが多い。したがって、彼自身の経歴にも相当のウソがあるに違いない。しかし、経歴がウソであるから、彼の証言もウソである、という論理にはならない。経歴にもウソの記述もあれば、正しい記述もあるからだ。つまり、こうした証言を評価する時に注意すべきは、「何がウソで、何が本当か」という点と、「部分的にウソがあれば全てを否定することを避けることと、逆に一部が本当であったら全てを肯定すること、の両面を避けること」だ。当たり前のことだが、一人の人間の記憶の全てが間違いであるとか、全てが正しい、というように単純な断定はできない。真実があるかもしれないし、ウソや誤解もあるのだ。

ちなみに、韓国当局からもたらされている権革と金国石の評価で奇妙な点がある。それ

は、この二人に対する韓国当局の評価がほとんど同じ文脈であることだ。二人とも「女とカネに汚く、経歴は全てウソであり、韓国の脱北者仲間では鼻つまみ者だ」というものだ。ところが、一方で奇妙な点がある。私がソウルの脱北者の会合において、金国石の話をし、情報を知らせて欲しいと頼んだことがある。しかし、30名ほどの参加者の誰もが金国石（仮名だが本名だとされる名前を出して確認）を知らない、と答えた。韓国当局からもたらされる情報が正しければ、脱北者仲間でも有名なはずだ。彼らのネットワークは強いし狭いから、なにがしかの情報があるはずだ。たまたま集まった人が知らなかっただけかもしれないが、一人として知っている人がいないというのは実に不思議なことだ。

以上のことから、私の権革証言に対する評価は、五分五分である。少なくとも、彼が言っている中味については、真実もあればウソや誤解そして他人からの伝聞といったものが入っていると考えている。大切なことは、彼を含めて全ての脱北者の情報について、その証言の全てを否定したり、肯定したりすることを避けることだ。それは、未だ全容の解明が進んでいない拉致問題解明を探求する立場の持つべき姿勢だと考える。

そしてなによりも、もし彼らの証言が真実であったとしたら、北朝鮮で塗炭の苦しみを味わっている日本人が存在することだ。彼らの証言の全てを否定してしまっただけでは、未だ分からない拉致されたであろう日本人を見殺しにすることを意味するのだ。

[[[[[[[[調査会ニュース Vol.80]]]]]](2004.3.8)

山本美保さん関連

以下は 3 月 5 日、県警の発表です。何かともかく(1)拉致でなく、自殺したことにしたい、(2)権革証言を否定したい、という目的にやっきになっている感じです。あとはその次(産経山梨版)にあるように

広報文

平成 16 年 3 月 5 日
警察本部警備第一課

行方不明者「山本美保」さんについて

山梨県警察本部警備第一課では、甲府市内から行方不明となっていた「山本美保」(当時 20 歳)さんにつき、これまで一連の捜査を行った結果、山形県内で発見された遺体と同一人物であると判断した。

記

1、山本美保さんの行方不明状況等

昭和 59 年 6 月 4 日、甲府市長松寺町の自宅を「図書館に行く」と言って外出し行方不明となり、4 日後の 6 月 8 日に新潟県柏崎市内の海岸において同人のセカンドバックが発見されている。

なお、本件失踪に関しては、北朝鮮から韓国に亡命した権革(クオンヒョク)が「平成 6 年頃、北朝鮮国内において見かけた女性が山本美保さんにそっくりである」と証言したとされている。

2、山本美保さんと判断した理由

山形県内で発見された身元不明遺体の一部との DNA 鑑定(本年 3 月上旬判明)を含めた捜査の結果により、山本美保さんと同一人物であることを判断した。

3、遺体の発見状況

(1) 発見日時

昭和 59 年 6 月 21 日午後 0 時頃

(2) 発見場所

山形県飽海郡遊佐町地内の海岸

(3) 状況

一部白骨化の状態で海岸に漂着していたところを海岸に遊びに来ていた者が発見

(4) 死因

溺死

(5) 今後の捜査

本件については平成 14 年 9 月以降、鋭意捜査を行っていたところであるが、山本美保さんが、平成 6 年頃、北朝鮮国内において生存していた可能性はない。死亡理由については、自殺の可能性はあるが、捜査を継続する。

2004.03.07

県警の説明不十分 県警記者クラブが異例の再質問要請

回答ほとんど「言えぬ」

県警警備一課の丸山潤課長が 5 日夕に行った山本美保さん死亡の発表に対し、「山梨社会部記者会」(産経新聞社など県内の新聞、放送、通信各社が加盟)は同夜、「説明が不十分だった」と文書で異例の再質問を行った。

丸山課長の発表は、県警側の意向で通常の記者会見と異なり、テレビや新聞のカメラを入れずに行われた。発表文を読み上げたほか、遺体の死亡推定日時、DNA 鑑定を行った時期など基本的な質問のほとんどに「捜査は継続しており、言えない」と回答を避けた。

警備一課への再質問への回答の概要は次の通り。記者会では、美保さんの失踪(しっそう)の真相については、県民や全国の特定失踪者の家族などの関心も高いため、正式な会見を求めているが、県警側は「難しい」との姿勢を崩していない。

- - 遺体の DNA 鑑定はいつ行ったか

「具体的には言えない」

- - DNA 鑑定で遺体と一致したのは、森本美砂さんの血液か

「その通りだ」

- - 身元不明遺体をどう絞り込んだのか

「新潟県を中心に、流れ着く可能性のある場所を中心に女性の遺体を調べた」

- - 何体の遺体を DNA 鑑定したか

「言えない」

- - 遺体の死亡推定日時は

「言えない」

- - 着衣は失踪当時と同じだったか

「失踪時、どんな着衣か確認できないため判断できない」

- - 靴は履いていたか

「言えない」

- - 遺体の外傷の有無は

「なかった」

- - 遺体は無縁仏として火葬されたのか

「山形県警が法律に基づいて役場に引き渡したと聞いているので、わからない」

- - 火葬で残った骨をDNA鑑定したのか

「違う。あくまで残った骨髄と（美砂さんの）血液が一致したとしか言えない」

- - 自殺の可能性がある、という根拠は

「自殺を含め、さまざまな可能性について捜査を継続するとしか言えない」

- - 家族にいつ、どのように伝えたのか

「家族の希望で言えない」

- - 今後どんな捜査をしていくのか

「幅広い捜査をしていくとしか言えない」

- - 全国民が注目している。カメラを入れて正式な会見をしてほしい

「それは難しい」

こんな対応で信じろと言われても…。

一年半前、小泉訪朝の日の夕方、外務省麻布飯倉公館で横田めぐみさんのご家族に植竹外務副大臣は「お嬢さんは亡くなっておられます。何度も平壤に確認しました」と「死亡宣告」をしました。別のご家族に伝えた福田官房長官も若干言い方の違いはあるものの断固とした言い方で「死亡」と言いました。しか確認したというのは全くの嘘であり、北朝鮮が言ってきたことをそのまま伝えただけでした。

あのとき政府の意図は「家族に死亡を納得させて拉致問題を終結させ、日朝交渉を進める」というものでした。その現場にいたものとして、今回のやり方は極めて疑念を感じるものです。

自己PRになりますが、横田早紀江さんの著書『めぐみお母さんがきっと助けてあげる』と私の『拉致救出運動の二〇〇〇日』が原作になって昨年放送されたテレビ東京制作のドラマ「めぐみお母さんがきっと助けてあげる」にはその場面が出てきます。

部屋の作りなどはともかく、そのときの状況は大体事実に近いものです。ビデオをお持ちの方は一度見返してみただけると幸いです。(荒木)

[[[[[[[[調査会ニュース Vol.81]]]]]]](2004.3.9)

3月10日の対応について

3月10日の1000番台リスト第4次発表、ゼロ番台リスト第7次発表はお知らせした通り14時から東京港区の友愛会館で行いますが、それに先立ち報道関係の方には同日11時より調査会事務所にて資料配付及び写真の掲示を行います。ただし、報道は記者会見開始後としていただくようお願いします。

山本美保さん失踪事件についての疑問と意見

弁護士 齋藤健児（法律家の会事務局長）

1 失踪当時の捜査の不思議

・ 昭和59年6月8日の荒浜海岸でのセカンドバッグ発見と山本美保さん失踪の事実を知った新潟県警や山梨県警は、「家出人捜索」「入水自殺の疑い」のイロハとしても、対馬海流の行き先である山形県に「身元不明の若い女性の遺体」が上がっていないか、まず警察内部で照会したのではないか。

・ 昭和59年6月21日、山形県遊佐町の海岸に身元不明の女性の変死体を発見した山形県警は、当然、対馬海流の上流にあたる新潟・富山県などに、入水自殺者や失踪者はいないか必ずや照会したはずである。こちらは単なる家出人捜索とは違い、犯罪の可能性ある変死体が現に存在するのであるから「殺人事件の容疑」も視野に「捜査本部」が設置され、捜査チームが組織される性格の、より重要事件であったのではないかと思われる。

・ 以下は、仮定の話である。以上の二つの事件は、「遺体が山本美保さんであったと仮定するなら」、捜査の結果、当然に結びつき、同一性の確認作業を経て（DNA鑑定などの最先端技術を経ずとも）美保さんと確認されたはずである。同一であるとされたなら、その原因は入水自殺か、他に事件性がないかの捜査が行われたことであろうと推測される。

このような事件について「失踪の事実」と「変死体発見」の事実が結びつけられないほど、日本の警察の捜査が無能力であったとはとうてい思えない。それとも、それすらも行わなかったずさんな捜査体制だったというのであろうか。

・ 美保さんの家族の記憶では、当時、女性の変死体が発見されると警察に呼ばれ、美保さんの特徴や歯型や歯科治療痕などを照合して、結果として「美保さんではない」とされた経験があるという。当時、警察がそのような捜査を行っていたことを示す事実である。

・ 本件「変死体」は、発見時期、発見場所、年齢、服装などから、「もっとも美保さんと疑われるべき遺体」であり、まず最初に美保さんとの同一性を確認すべきことは客観的に明らかである。

- ・ 以上のように考えると、山本美保さんと本件変死体とは照合されたが、同一性が否定された事実があるのではないかとこの疑いが残る。最近になって初めて、この「変死体」と美保さんとの同一性の捜査が行われたということ自体が、極めて「異様」な事態であると思われる。山梨県警は、なぜこのような異様な展開となったのか、この点についてまず関係者に納得のいく説明と資料の開示をするべき責任がある。

2 山形大学医学部の司法解剖について

- ・ 山梨県警の発表によれば、遊佐町の海岸で発見された遺体は、山形大学医学部で司法解剖に付されたと言う。しかし警察はその詳細を一切明らかにしていない。その際に、医学部がたまたま保存していた遺体の骨髄があり、今回の名古屋大学のDNA鑑定に資料として提供され、これによって骨髄は無くなり再鑑定は無理だという。

- ・ 解剖報告書の内容を明らかにしない、このような説明は、関係者の疑念を呼び起こすことはあっても、納得させるに全く不十分である。様々な疑問がある。

- ・ 何故、「あの遺体」についてだけ骨髄が残されていたのか？

- ・ DNA鑑定を行うことについて予め家族の了解は得ていたのか？

- ・ 警察が行うべきは、「司法解剖報告書」の開示ではないのか。このような司法解剖は、まず遺体の身元確認のため、次に事件性の確認を目的として行われ、したがって遺体の血液型、歯型、歯科治療痕、指紋、ホクロ、痣の存在などその他遺体が示す故人の特定に役立つ身体的特徴が種々記載されているはずである。

- ・ 頭部のレントゲン写真が残っていれば、最近の技術では生前の顔形を再現すらできるはずである。

- ・ 遺骨が残されているはずである。遺骨によるDNA再鑑定は可能だ。遺体の埋葬はどうなっているのだろうか。警察は遺骨の再鑑定により山本美保さんとの同一性を確認をする機会を是非保証すべきである。このことによって事実の全貌を明らかにし、家族や関係者を納得させる責任があると思われる。

訂正

ニュース 77 号で提示した疑問点のうち、足のサイズに関しては別の遺体との照合であったことが明らかになりました。この部分は訂正します。

[[[[[[[[調査会ニュース Vol.82]]]]]]](2004.3.10)

3月10日の対応について

既にお知らせしているように、本日2時より港区の友愛会館で1000番台第4次リスト発表とゼロ番台第7次リストの発表を行います。人数は1000番台が2人、ゼロ番台が7人です。

なお、これもお知らせしている通り報道関係の方には11時(間に合えばもう少し早くから)に調査会事務所で資料の配付、写真撮影の対応を行います。但し実際に報道するのは記者会見開始後ということでご理解下さい。

また、資料はメールニュースでも流しますが、これはご家族等連絡先を抜いたものです。報道関係の方で配付資料と同じものをメールで受け取りたい場合は社名を明記して資料希望の旨ご記載のメールをお送りください。添付ファイルで送信します。

[[[[[[[[調査会ニュース Vol.83]]]]]]](2004.3.10-2)

本日の発表について

すでにお知らせしているように、調査会では本日 2 時より記者会見を開き、1000 番台リスト第 4 次発表及びゼロ番台リスト第 7 次発表を行います。内容は下記の通りです。ただし、報道は記者会見開始をもって解禁とさせていただきますので何卒よろしくお願ひ申上げます。なお、3 月 10 日時点で 1000 番台リストは 18 名、ゼロ番台リストは 174 名（公開は合計 194 名、うち 2 名の国内にいることが確認された）。非公開（2000 番台リスト）の中ではこれまでに 2 名が国内にいることが確認されている。現在調査会にリストのある失踪者の総数は 400 人弱

1000 番台（拉致の可能性の高いと判断される失踪者）第 4 次発表（敬称略）

前上昌輝（まえがみまさてる）

昭和 32（1957）年 7 月 16 日生、北海道富良野の牧場でアルバイトを終え京都の実家に戻る途中、昭和 52（1977）年 9 月 22 日、旭川駅の荷物一時預かりに「3 日間お願ひします」とザックを預け、以来消息を絶っている。本件に関しては他の理由による失踪が考えられないこと、不審電話や失踪時近海に北朝鮮工作船と思われる船がいたことや旭川及び周辺地域で失踪事件が起きていることなど各種の要件を総合的に検討して判断した。

河嶋功一（かわしまこういち）

昭和 33（1958）年 5 月 5 日生、関東学院大学を卒業した昭和 57（1982）年 3 月 22 日、実家のある浜松で就職する直前、下宿を引き払うため両親が横浜市の下宿へ荷物を取りに行き、本人は電車で浜松に帰ると言って出たまま失踪。当時小雨で傘一本、電車代と本人の小遣い程度しか持っていない。本件に関しても基本的には他の理由による失踪が考えられないことと、失踪の何日か前に特に親しかったわけでない友人に「北朝鮮に行く」という電話をかけている。内容は一方的なもので、電話を受けた友人も違和感を感じた。その他各種の要件を総合的に検討して判断した。

ゼロ番台第 7 次発表（敬称略）

（氏名）異 敏一

（読み方）たつみ としかず

（性別）男

（生年月日）19430815

（失踪時期）19600703

（失踪当時の年齢）16

（不明になった場所）大阪市の自宅を出て

（失踪状況）高校の映画鑑賞会があり、正午頃、自宅からその場所の映画館へ向かったと思っていたがそこへは現れず、そのまま失踪

（当時の職業）工業高校機械科

（本人の特徴）がっちりした体格、太ってはいない、顔は柔らかな感じ、スポーツはしてい

なかったが、野球観戦が好きだった

(身長) 170 ?

(当時の居住地) 大阪市城東区

(氏名) 野崎 幸夫

(読み方) のざき ゆきお

(性別) 男

(生年月日) 19341016

(失踪時期) 19610701

(失踪当時の年齢) 26

(不明になった場所) 上川郡下川町の消防本部

(失踪状況) 12 時のサイレンを吹鳴した後失踪。昼食は通常自宅であっていたが、妻から昼食に戻らないとの連絡が入り失踪が分かる。

(当時の職業) 消防職員

(本人の特徴) 体重約 67 キロ。自動車整備技術あり タバコ吸わない スポーツ特に無し
酒は少々

(身長) 168

(当時の居住地) 北海道上川郡下川町

(氏名) 馬場 重夫

(読み方) ばば しげお

(性別) 男

(生年月日) 19450225

(失踪時期) 1972 年

(失踪当時の年齢) 27

(不明になった場所) 東京都品川区

(失踪状況) 昭和 45 年鹿児島に住む家族と連絡が取れなくなりそのまま現在に至る。
昭和 47 年まで東京に居住していたことは明らかになっている。

(当時の職業) 無職

(当時の居住地) 東京都品川区

(氏名) 至極 透

(読み方) しごく とおる

(性別) 男

(生年月日) 19480726

(失踪時期) 19780713

(失踪当時の年齢) 29

(不明になった場所) 和歌山県和歌山市の自宅を出て

(失踪状況) 日記を記入した手帳のほか船員手帳・年金手帳・健康保険証・定期積み立て
預金通帳・印鑑・実印・アルバムなども部屋に残したまま失踪。

(当時の職業) 会社員

(本人の特徴) 体重 63.5 キロ 眼鏡なし。 酒少々 タバコ吸わない。 耳後ろに中耳炎の手術痕あり。

(身長) 161.2

(当時の居住地) 和歌山県和歌山市

(氏名) 上田 俊二

(読み方) うえだ しゅんじ

(性別) 男

(生年月日) 19311120

(失踪時期) 19810714

(失踪当時の年齢) 49

(失踪状況) 東京都日野市の自宅を出て当日本人宛に誰かから電話があり出かけたまま失踪。通帳、パスポートはそのまま。失踪後 1 ~ 2 年後に友人(山本氏)宅に差出人不明の金正日をたたえるパンフレット数種類の入った小包みが北朝鮮から届く。

(当時の職業) 翻訳業

(本人の特徴) タバコは吸う、酒は飲む。趣味はテニス。

(身長) 174

(当時の居住地) 東京都日野市

(氏名) 橋 邦彦

(読み方) たちばな くにひこ

(性別) 男

(生年月日) 19720903

(失踪時期) 19911015

(失踪当時の年齢) 19

(不明になった場所) 東海・静岡県沼津市の自宅より外出したまま不明

(失踪状況) 10 月 15 日夜、男性から電話があり出ていったまま失踪。免許証の更新もせず部屋もそのまま。

(当時の職業) 店員

(本人の特徴) 56 キロ 4 才のとき両足の小指少し合指していたので手術をした。タバコは吸う。酒は飲む。右手一指し指で鼻を上げる仕草。肩がっちりしている。

(身長) 160

(当時の居住地) 静岡県沼津市

(氏名) 水島 弥寿志

(読み方) みずしま やすし

(性別) 男

(生年月日) 19640420

(失踪時期) 20030908

(失踪当時の年齢) 39

(不明になった場所) 埼玉県蕨市の自宅で

(失踪状況) 失踪前に1週間体調を崩し休みをとっていた。9月8日に会社へ連絡も無くなったことで行方不明判明。

(当時の職業) 会社員

(本人の特徴) 体重 66 キロ 前髪を右手と首を上にもむけてあげる 煙草吸わない
酒は付き合い程度 趣味 読書 映画 スポーツ テニス 特技 コンピューター 大またでゆったり歩く

(身長) 169

(当時の居住地) 埼玉県蕨市

山本美保さんの件について質問状を県警に提出

本日1時半、以下の質問状が県警に提出される予定です。地元でも記者会見が行われ
ます。

平成16年3月10日

山梨県警察本部本部長 殿

山本美保の家族

特定失踪者問題調査会

山本美保さんの行方不明の真相究明を求める会

山梨県警の今回の発表に対する質問について

時下、益々ご清祥の事とお喜び申し上げます。

常日頃からご厚情を賜り、御礼を申し上げます。

さて、このたびの平成16年3月5日甲府市ニュー機山において、DNA鑑定の結果が示され、山形県の遺体が山本美保さんであると県警は断定致しましたが、山本美保の家族及び支援団体はいくつかの疑問を抱いている次第です。

そこで、山梨県警に対しまして、別紙添付の質問事項について、平成16年3月17日までに、文書にて御回答をお願いする次第です。

人命尊重の見地から、大至急ご対応頂けますよう重ねて御願い申し上げます。

以上

質問事項

1. 当時、山形の遺体が発見された時に、山形県警から山梨県警に照会の事実はなかったのか。ないとすれば、その遺体の件を、山梨県警が知ったのは、この20年間のうちのいつで、それはどういう経過から知ることになったのか。

2. 山形の遺体の状況を県警はどのような資料から、どの程度把握しているのか、説明してほしい。写真はあるのか、ないのか。あれば県警は見たのか。山形県警の調査資料を山梨県警は読んでいるのか。

当時の新聞報道では、「死後 1 ヶ月から 2 ヶ月、20 歳から 40 歳の女性で、右腕が根本から両太ももから切取られていた」とあるが、その通りか。それ以外の本人を特定できるような指紋、顔形、体型、髪型などの身体的特徴は、把握していないのか。その遺体の当時の山形県警の捜査状況も、当然知っていると思うが、それについても説明してほしい。

切り取られた理由が、漁船のスクリューだったという根拠はあるのか。その遺体が自殺の可能性があるとの論拠は何か。

3. 首のネックレスが残っているということは、当然頭部も残っていたと思われる。頭部が残っていれば、歯型があるはずだが、歯型の資料はないのか。あれば、その歯型と山本美保さんの照合はなされたのか。なされなかったとすれば、なぜか。
4. 山梨県警が、今回の山形の遺体の骨髄が残っているということを知ったのは、いつで、どういう経過で知ることになったのか。その骨髄を残していた担当者は存命か。その方の所在を確認し、事情を聴取したのか。その骨髄は山形大学の医学部のどこに、どのような保存状態で、どのくらいの量があったのか。骨髄の提供は、担当者からか、それとも大学側からか。その骨髄試料の写真はないのか。
5. 平成 15 年 5 月に、森本美砂さんに血液提供を求めたのは、山形の遺体との DNA 鑑定が念頭にあったのか。血液提供からなぜ鑑定結果が出るまでに 9 ヶ月間かかったのか。まず警察の科学捜査研究所で鑑定したというが、その期間と結果の状況はどうだったのか。名古屋大学での鑑定が昨年 10 月から 5 ヶ月間かかったのはなぜか。名古屋大学の鑑定書の写しを提供してほしい。試料に用いた骨髄がわずかのために、2 回の調査でなくなってしまったというが、骨髄から取り出して鑑定に用いた DNA 自体は残っているはずだ。その DNA 試料を提供してほしい。
6. 今回、山本美保さんと山形の遺体の一致の根拠は、DNA 鑑定のみで家族に示したが、なぜ DNA 鑑定結果だけで断定したのか？それ以外の根拠はないのか。あったならば、説明してほしい。
7. 県警は山形の遺体の遺留品の写真を、平成 15 年 10 月に美砂さんに、平成 16 年 1 月にお母様に、二度に渡って見せている。その都度「美保ではない」と家族が否定している。
今回の DNA 鑑定結果との矛盾について、警察はどのように解釈しているのか。なぜ

その矛盾の解明を家族に説明しないのか。

遺留品が違ふと家族が知っているにもかかわらず、なぜ科研に続いて名古屋大学にDNA鑑定を依頼したのか。

- 8 . 平成 16 年 1 月 29 日に、国外移送目的略取容疑で告発状を提出した際に、「捜査はしているが手がかかりはない」と県警は家族と支援団体に説明していた。なぜ DNA 鑑定していることを説明しなかったのか。
- 9 . 3 月 5 日(金)夕方のフジテレビのニュースで全国に「山本美保さんが山形の遺体と一致し、事件性のない自殺の可能性が高いと山梨県警が判断した」との報道がなされた。家族や支援団体は、一切マスコミには話をしていなかった。にもかかわらず、逆にフジテレビが家族や支援団体に取材を開始していた。そして、その報道内容は、その後山梨県警の公表した「広報文」の内容そのものであった。警察が情報を一部マスコミにリークしたとしか考えられない。情報リークを認めるか。認めないとすれば、その経緯を調査する意向はないのか。
- 10 . 県警の広報文で「北朝鮮から韓国に亡命した権革(クオンヒョク)が「平成 6 年頃、北朝鮮国内において見かけた女性が山本美保さんにそっくりである」と証言したとされている」「本件については平成 14 年 9 月以降、鋭意捜査を行っていたところであるが、山本美保さんが、平成 6 年頃、北朝鮮国内において生存していた可能性はない」と 2 ヶ所も引用している。権革(クオンヒョク)証言については、特定失踪者問題調査会が山本美保さんを拉致濃厚と判定した時に、証拠としては重きをおいていない。にもかかわらず、なぜ県警はその証言を重視するのか。その理由を説明してほしい。
- 11 . セカンドバックが発見された柏崎、遺体が発見された山形県遊佐町は、北朝鮮の工作員の上陸地点だが、県警はそのことを認識していたのか。
- 12 . 美保さんが失踪してから、無言電話があったが、県警は一体誰が何のためにかけたと考えているのか。3 年 6 カ月後の電話では「美保でしょ? 元気?」という、かすかに「元気……」と答え、この他電話口ですすり泣く声や無言電話が続いたというが、警察はこのことをどのように解釈しているのか。
- 13 . 元北朝鮮工作員安明進氏によれば、「拉致された人が抵抗した場合強烈に殴打され、死亡した人もいた」と言っている。仮に今回の遺体が山本美保さんだとしても、北朝鮮工作員の上陸地点であること、遺体の状況から拉致の失敗など、拉致の可能性を県警は考えていないのか。
- 14 . 今回、県警はなぜ家族の要請にもかかわらず山下滋夫氏ら支援団体の代表者らの同席を許されなかったのか。「捜査上の理由」ということで断ったが、それまでは、

山下氏ら支援団体を「捜査上の理由」で、県警から状況報告したり、協力を求めたり、してきたにもかかわらず。

(連絡先は山下滋夫調査会理事としてあります)

[[[[[[[[調査会ニュース Vol.84]]]]]]](2004.3.11)

山本美保さん関連

今週末、関係者が山形及び新潟の調査に入ります。

13日 川人博・法律家の会幹事（調査会常務理事） 遊佐町

14日 荒木和博代表 柏崎市（荒浜海岸）

15日 真鍋貞樹専務理事 遊佐町等

その後週明けに検討して国会への対策などを行っていく予定です。

なお、既にお知らせした情報のうち、双子の妹である森本美砂さんに山梨県警が問題の変死体の遺留品の写真を見せたのは11月7日であることが分かりました。美砂さんの血液採取からちょうど半年後になりますが、いずれにしてもこの10ヶ月間何をしていたのか、非常に不可解です。

警察関係者の中には「当事者でないのだから分からないが、やはりこれは圧力がかったのではないか」と言う人もいます。第一線の警察官は色々と苦勞されていると思いますが、いざというときにその圧力をかけた人間が現場に責任を押し付けるのだけはやめて欲しいですし、私たちが敵がどこにいるかはしっかり見極めていかなければならないと肝に銘じています。

もちろん、最終的な敵は金正日なのですが。

[[[[[[[[調査会ニュース Vol.85]]]]]]](2004.3.17)

安明進氏福岡へ

加藤久美子さんの調査などのため、3月24日、25日の両日安明進氏が福岡を訪れます。

以下、青木英実調査会常務理事(救う会福岡代表)が発表したアピールを転載意します。近郊の方はぜひ講演会にご参加下さい。安氏は講演会の前、17時頃に失踪現場である西鉄北九州線(路面電車・現在廃止)大蔵電停跡を視察する他、25日には福岡県警に赴き加藤久美子さん目撃情報に関して事情聴取を受ける予定です。

3.24 安明進氏北九州講演会に結集しましょう！！

北朝鮮に拉致された日本人を救出する福岡の会代表
青木英実

3月24日(水)既報の通り、元北朝鮮特殊工作員(朝鮮労働党作戦部715連絡所所属)で、1993年9月韓国へ亡命。その後横田めぐみさん、市川修一さんら拉致被害者の目撃証言をもたらし、拉致問題の突破口を作った安明進氏(1968年北朝鮮黄海北道平山郡生まれ)が、福岡・北九州を訪問します。

安氏は、1970年8月8日北九州市八幡区(現八幡東区)で失踪した会社員加藤久美子さん(当時22歳)と思われる女性を、1988～90年頃、北朝鮮金正日政治軍事大学校で、横田めぐみさんらと一緒にいるところを目撃したと証言しました。

今回の来福は、拉致問題についてあらためて福岡県民の関心を喚起するとともに、加藤久美子さん失踪事件の真相を究明するため、特定失踪者問題調査会荒木和博代表の同行の下、関係者との面談、現地視察、市民への講演、警察の事情聴取に応ずるなど極めて重要な訪問となります(なお安氏の来福今回で2回目になります)。

福岡県民、北九州市民の皆さん、自らと家族の生命の危険を冒してまで拉致事件の真実を日本人に伝えてくれた安氏の叫びにぜひ耳を傾けてください。

24日18時半から、北九州市八幡西区折尾、JR折尾駅前すぐの「オリオンプラザ」(北九州市生涯学習センター分館)第二会議室にて、荒木氏の通訳・解説つきで、本会主催により安氏の講演会を開催致します(会費500円)。

会場はJR折尾駅をおりて、駅前すぐに大きく「丸和」「オリオンプラザ」と掲げてあり大変わかりやすくなっております。

小倉から普通で 20 分、博多から特急で 30 分。若松、筑豊方面からも JR を利用されれば大変便利です。なお、有料立体駐車場もあります。

加藤久美子さんの問題もあり、極めて貴重な機会と思われます。

多くの福岡県民、とりわけ北九州周辺の市民の皆様の結集を呼びかけます。

以上

[[[[[[[[調査会ニュース Vol.86]]]]]]](2004.3.17-2)

山梨県警が回答

本日山梨県警は山本美保さんのご家族・地元の真相究明を求める会・調査会が提出していた質問状について次のように回答してきました。

回答の内容についてはまだ分析しなければならない部分がありますが、印象としてはアリバイ作りではないかとの感をぬぐえません。回答に出てくるように警察は何度もDNA鑑定について説明しているとしていますが、森本美砂さんもお母さんもそれを記憶していません。重要なことであるDNA鑑定についてご家族が記憶していない（対応について書いたメモを見直しても他のことは書かれていてもDNAについては出てこないそうです）

しかも、3月4日にDNA鑑定の結果は突然美砂さんに知らされるのですが、このときは山梨県警には鑑定書類はなく、翌5日に取りに行ったのです。本人が生きて見つかったならともかく、亡くなったという情報が入ったときに書類も確認せず、他のことについても確認しないで電話で伝えるというのはどう考えても不自然です。

それを美砂さん夫妻に見せた県警の担当者は「私たちもよく分からないのだが」というニュアンスで説明し、最後の99.9999%（多少桁は違うかも知れませんが）というところを指し示したといえます。

このとき家族が遺体は現在どうなっているのか聞いても分からないとのことでした。おそらくは何らかの理由で大慌てで家族に死亡を納得させる必要があったのではないかと思います。

また、警察は執拗に美保さんが自殺したものとしようとしています。それならば彼女に縁もゆかりもない柏崎の荒浜海岸にバックが一つだけ落ちていたのはどういうことなのか、まだ謎の部分が少なくありません。

私たちはまずご遺体が山本美保さん本人なのかどうかについて、DNA鑑定以外の方法も含め、納得がいくまで確認すべきと思います。そして、この事件の真相がどのようなものなのか最後まで確認する必要があります。

同時に今回の発表がなぜこのような形になったのか、ちょうど6カ国協議やその前の平壤での外務省の交渉などが行われていたときで、この発表に政治的意図はなかったのかなどの問題についても調べていこうと思っています。なお、拉致議連では近く警察庁及び山梨県警関係者から役員会の場で事情を聞く予定にしています。

（以下回答文 原文は回答のみですが、分かりやすくするために質問事項をその前につけてあります）

山本文子
森本美砂 殿
森本直行

山梨県警本部警備第一課長

捜査経過の通知について

犯罪捜査規範第10条の3に基づき、3月10日付のご質問事項に沿って別添のとおり通知いたします。

当時、山形の遺体が発見された時に、山形県警から山梨県警に照会の事実はなかったのか。ないとすれば、その遺体の件を、山梨県警が知ったのは、この20年間のうちのいつで、それはどういう経過から知ることになったのか。

質問事項1について

山形県では当該身元不明死体が発見されたのは、昭和59年6月21日であり、山形県警では、自他殺の別、死因などを特定するためご遺体を司法解剖に付すなど、必要な捜査を行ってきましたが、身元を特定する有力な手がかりは得られなかったと承知しております。警察では、身元不明死体を認知し、指紋、身体特徴、各種照会を行っても身元が確認できない場合は、身元不明死体票を作成し警察本部鑑識課に送付しており、鑑識課では補完されている家出人票との対照を行い、該当がない場合、当時は全国の警察本部鑑識課に直接文書を送付しての照会を行うことで、不明者の確認を行っていたところです。昭和60年7月5日、本件ご遺体に関しても山形県警が全国に手配を行っており、山梨県警は、この時点で、当該身元不明死体の情報を入手したところであります。

山形の遺体の状況を県警はどのような資料から、どの程度把握しているのか、説明してほしい。写真はあるのか、ないのか。あれば県警は見たのか。山形県警の調査資料を山梨県警は読んでいるのか。

当時の新聞報道では、「死後1ヶ月から2ヶ月、20歳から40歳の女性で、右腕が根本から両太ももから切取られていた」とあるが、その通りか。それ以外の本人を特定できるような指紋、顔形、体型、髪型などの身体的特徴は、把握していないのか。その遺体の当時の山形県警の捜査状況も、当然知っていると思うが、それについても説明してほしい。切り取られた理由が、漁船のスクリューだったという根拠はあるのか。その遺体が自殺の可能性があると論拠は何か。

質問事項2について

山梨県警においては、山形県警の全国手配により、当該身元不明死体について、死因、身体的特徴（写真を含む。）等の解剖結果等を含め、山形県警において行われた捜査状況について把握しております。

なお、当時の捜査によれば、死因は溺死、自他殺は不明、死後3週間から3カ月、血液

型A型、推定年齢が20～25歳、推定身長が160～170cm、左右下肢の大腿上端部での欠損には、スクリューによる痕跡が認められたと承知しております。また右上肢がなく、左手表皮が消失していることから、指紋の採取はできず、頭部、顔面が白骨化していたと承知しております。

しかしながら、ご遺体の身元を特定する有力な手がかりを得るには至らなかったと承知しております。

首のネックレスが残っているということは、当然頭部も残っていたと思われる。頭部が残っていれば、歯型があるとはずだが、歯型の資料はないのか。あれば、その歯型と山本美保さんの照合はなされたのか。なされなかったとすれば、なぜか。

質問事項3について

本件ご遺体については、山形県警において、歯形を採取していましたが、ご遺体の損傷が著しく、容貌や身体特徴が不明であったことや、身元確認の決め手となる所持品もなかったことなどから、当時はそのご遺体を山本美保さんに結びつけることができる決め手がなく、歯形の照合は行われていないと承知しております。

なお、平成14年10月にこのご遺体について山梨県警で把握後、山本美保さんが受診していた歯科医に対する照会を行いました。すでにカルテの保存期間を経過していたことから、カルテは現存せず、このご遺体と歯形の照合を行うことはできませんでした。

山梨県警が、今回の山形の遺体の骨髄が残っているということを知ったのは、いつで、どういう経過で知ることになったのか。その骨髄を残していた担当者は存命か。その方の所在を確認し、事情を聴取したのか。その骨髄は山形大学の医学部のどこに、どのような保存状態で、どのくらいの量があったのか。骨髄の提供は、担当者からか、それとも大学側からか。その骨髄試料の写真はないのか。

質問事項4について

山梨県警では、平成14年9月21日にご家族から「北朝鮮に拉致されたのではないか」との相談を受けて以降、関係者約100人の事情聴取をはじめ、事件、事故などあらゆる事案を想定し幅広い捜査、調査を行うと同時に、広範囲に身元不明死体の調査を行ってきました。

複数の身元不明死体データを調査する中で、平成14年10月23日に性別、血液型が一致し、着衣の一部が類似、発見日時、場所等から山本美保さんである可能性も考えられる本件ご遺体が浮上し、山形県警の調査によって、平成14年11月19日、本件ご遺体の一部（骨髄）が司法解剖を行った山形大学に保管されていることが判明したものです。

本件鑑定人はご存命ですが、既に同大学を退官されております。骨髄は、山形大学の法医学研究室に、微量ではありますが、本件ご遺体のものであることが明確にされた形で保管されており、保管者である山形大学の医師から適正な手続を経て提出を受けております。

写真については鑑定書（DNA型鑑定）に添付されています。

平成15年5月に、森本美砂さんに血液提供を求めたのは、山形の遺体とのDNA鑑定が念頭にあったのか。血液提供からなぜ鑑定結果が出るまでに9ヶ月間かかったのか。まず警察の科学捜査研究所で鑑定したというが、その期間と結果の状況はどうだったのか。名古屋大学での鑑定が昨年10月から5ヶ月間かかったのはなぜか。名古屋大学の鑑定書の写しを提供してほしい。試料に用いた骨髄がわずかのために、2回の調査でなくなってしまったというが、骨髄から取り出して鑑定に用いたDNA自体は残っているはずだ。そのDNA試料を提供してほしい。

質問事項5について

平成15年4月26日、山本文子さん、森本美砂さん、山下滋夫さんの同席の場で、山形で発見された身元不明死体の特定のためDNA型鑑定が可能であると説明しており、その後、森本美砂さんから血液の提供を受けております。

鑑定はまず平成15年5月、警察庁の科学警察研究所で行い、6月上旬、山本美保さんである可能性はあるが断定できない旨の回答を得ました。この結果についても、ご家族には説明しております。その後、名古屋大学に対し平成15年10月上旬、DNA型鑑定を依頼したところ、本年3月5日、本件ご遺体が森本美砂さんと一卵性双生児であるとの鑑定結果が出たものです。

鑑定書の写しについては、本件が未だ捜査中の事件であることから交付することはできませんが、名古屋大学では本件を重要な案件であると捉え、慎重な鑑定を行った結果、5ヶ月という期間を要したものであります。鑑定に用いたDNAについては、現在も名古屋大学において保管されているようですが、その詳細については同大学へ確認中です。

今回、山本美保さんと山形の遺体の一致の根拠は、DNA鑑定のみで家族に示したが、なぜDNA鑑定結果だけで断定したのか？それ以外の根拠はないのか。あったならば、説明してほしい。

質問事項6について

本件ご遺体が山本美保さんであると判断するに当たっては、DNA型鑑定が決め手となっておりますが、山本美保さんが昭和59年6月4日に行方不明になり、6月8日に新潟県柏崎市でセカンドバッグが発見されたこと、山形県で6月21にご遺体が発見されたこと、新潟県から山形県への海流等の捜査、解剖の所見等を踏まえ、総合的に判断しました。

県警は山形の遺体の遺留品の写真を、平成15年10月に美砂さんに、平成16年1月にお母様に、二度に渡って見せている。その都度「美保ではない」と家族が否定している。

今回のDNA鑑定結果との矛盾について、警察はどのように解釈しているのか。なぜそ

の矛盾の解明を家族に説明しないのか。遺留品が違ふと家族が知っているにもかかわらず、なぜ科研に続いて名古屋大学に DNA 鑑定を依頼したのか。

質問事項 7 について

山形県の身元不明死体の遺留品のネックレスと G パン、下着については、平成 15 年 1 月 7 日に森本美砂さんと平成 16 年 1 月 27 日山本文子さんにそれぞれ写真で確認していただきましたが、その際のご家族の回答は、この写真だけでは判別できない、わからない、との内容でありました。

DNA 型鑑定はまず警察庁の科学警察研究所で行いましたが、山本美保さんの可能性はあるが断定できない旨の結果であったことから、7 月 22 日、森本美砂さんに対して科学警察研究所の DNA 型鑑定結果を述べた上で、再鑑定を行うこととお話しております。

平成 16 年 1 月 29 日に、国外移送目的略取容疑で告発状を提出した際に、「捜査はしているが手がかりはない」と県警は家族と支援団体に説明していた。なぜ DNA 鑑定していることを説明しなかったのか。

質問事項 8 について

DNA 鑑定を行っていることはすでにご家族には伝えてありました。また、告発を受理した時点では鑑定中でありました。

3 月 5 日(金)夕方のフジテレビのニュースで全国に「山本美保さんが山形の遺体と一致し、事件性のない自殺の可能性が高いと山梨県警が判断した」との報道がなされた。家族や支援団体は、一切マスコミには話をしていなかった。にもかかわらず、逆にフジテレビが家族や支援団体に取材を開始していた。そして、その報道内容は、その後山梨県警の公表した「広報文」の内容そのものであった。警察が情報を一部マスコミにリークしたとしか考えられない。情報リークを認めるか。認めないとすれば、その経緯を調査する意向はないのか。

質問事項 9 について

山梨県警では、これまでも、捜査に関する情報については、ご家族の立場や心情に配慮した取り扱いをしてまいりました。

従って、ご家族への連絡、説明を最優先とし、報道発表についてもその後に行うこととしておりました。

山梨県警では、こうした立場から、ご家族への説明に先立つ報道関係者への説明は一切行っておりません。

県警の広報文で「北朝鮮から韓国に亡命した権革（クオンヒョク）が「平成 6 年頃、北

朝鮮国内において見かけた女性が山本美保さんにそっくりである」と証言したとされている」「本件については平成14年9月以降、鋭意捜査を行っていたところであるが、山本美保さんが、平成6年頃、北朝鮮国内において生存していた可能性はない」と2ヶ所も引用している。権革（クオンヒョク）証言については、特定失踪者問題調査会が山本美保さんを拉致濃厚と判定した時に、証拠としては重きをおいていない。にもかかわらず、なぜ県警はその証言を重視するのか。その理由を説明してほしい。

質問事項10について

DNA型鑑定の結果などから、昭和59年6月21日に山形県で発見されたご遺体が山本美保さんであると判断したことから、平成6年に山本美保さんが生存していた可能性はない、という判明した事実を述べたものです。

セカンドバックが発見された柏崎、遺体が発見された山形県遊佐町は、北朝鮮の工作員の上陸地点だが、県警はそのことを認識していたのか。

質問事項11について

柏崎市は、昭和53年7月のアベック拉致容疑事案の発生場所であり、山形県遊佐町に隣接する酒田市でも、過去に北朝鮮工作員と見られる者が潜入した事例があることは承知しております。

美保さんが失踪してから、無言電話があったが、県警は一体誰が何のためにかけたと考えているのか。3年6カ月後の電話では「美保でしょ？ 元気？」という、かすかに「元気……」と答え、この他電話口ですすり泣く声や無言電話が続いたというが、警察はこのことをどのように解釈しているのか。

質問事項12について

操作は行いましたが、解明するには至っていません。

元北朝鮮工作員安明進氏によれば、「拉致された人が抵抗した場合強烈に殴打され、死亡した人もいた」と言っている。仮に今回の遺体が山本美保さんだとしても、北朝鮮工作員の上陸地点であること、遺体の状況から拉致の失敗など、拉致の可能性を県警は考えていないのか。

質問事項13について

本件については、一連の操作結果を勘案すれば、山本美保さんの失踪は、自殺によるものである可能性がある一方、拉致の可能性も完全には排除できないものとして、捜査を継続することとしております。

今回、県警はなぜ家族の要請にもかかわらず山下滋夫氏ら支援団体の代表者らの同席を許されなかったのか。「捜査上の理由」ということで断ったが、それまでは、山下氏ら支援団体を「捜査上の理由」で、県警から状況報告したり、協力を求めたり、してきたにもかかわらず。

質問事項 14 について

操作上の理由と、ご家族及びこれまで捜査に協力いただいた関係者のプライバシーに配慮して判断いたしました。

[[[[[[[[調査会ニュース Vol.87]]]]]](2004.3.18)

昨日発表された山梨県警の回答と拉致議連役員会で平沢勝栄事務局長が伝えた警察庁の説明を色々分析しているのですが、ともかく見事(?)だと思ったのは要は警察に全く責任がないということを延々と「立証」しているということです。警察がそういう対応ならこちらもこれから腰を落ち着けて対応していこうと思います。

われわれのところには現場第一線の警察官の声も直接間接に色々入ってきますが、困難な状況の中で、それでも一所懸命にやっている人たちの努力を幹部の保身で無にってしまうことは避けてほしいと思います。

「ニシ アズマ先生」

これは寺越武志さんが北朝鮮で出した「著書」の中に出てくる武志さんの高浜中学時代の担任の先生の名前です。

ご存知のように寺越武志さんは昭和 38 (1963) 年 5 月、叔父の寺越昭二さん、外雄さんらと漁に出て拉致されたのですが、この武志さんの著書として平成 13 (2001) 年 12 月 30 日 (本の奥付による) に北朝鮮で出版されたのが『人情の海』。よくまあ、こんな名前を付けたものだと思いますが、この中にエピソードの一つとして担任の「ニシ アズマ」先生というのが出てきます。

変な名前だと思っていたのですが、先日この先生は西東義雄先生という方であることがわかりました。名字は「さいとう」と読むそうです。北朝鮮のライターはおそらくニシが名字、アズマが名前だと思ったのでしょう。韓国人もよくこういった間違いをしますが、せっかく足りない紙を融通して作ったプロパガンダが、逆に本人が書いたものでないことを証明してしまいました。こういうところが北朝鮮らしい間の抜けたところです。

この本は北朝鮮が拉致を否定するために作ったもので、一時は日本で出版させようと思っていたようですが、さすがに出すところはなかったようです。しかし、寺越事件には拉致問題の本質を探る上で重要な要件がいくつも入っています。今後この本の矛盾などから、色々なことが明らかにできるのではないかと考えています。

[[[[[[[[調査会ニュース Vol.88]]]]]]](2004.3.26)

法律家の会が佐渡調査ツアーを企画

北朝鮮による拉致被害者の救出にとりくむ法律家の会（木村晋介、藤野義昭共同代表）
では下記の通り佐渡の調査を行います。会員のみならず一般にも参加者を公募しています
ので関心のある方はぜひご参加下さい。

横田さん・曽我さんが いなくなった日... (大澤孝司さん)

～北朝鮮の拉致を考える現地調査案内～

日 時：5月8日(土)～9日(日)

参加費：40,000円(東京からの新幹線・船の運賃料金・宿泊費等、詳しくは事務局に
お問い合わせ下さい)

今年3月佐渡市として出発した佐渡ヶ島。この島で30年前、一人の青年が姿を消した。

彼の名前は 大澤孝司(おおさわたかし) 当時 27歳。

東京農大卒業後新潟県の土木技師になった彼の姿を1974年2月以後見た人はいない。

曽我ひとみさんが、「拉致被害者」として帰国してから、「やはり孝司も！」と家族は、
確信した。

曽我さんには、佐渡島に拉致の協力者のいた事実が判明した。

曽我さんと大澤孝志さんにはこんなに共通点があった。

	曽我ひとみさん	大澤孝司さん
場 所	佐渡郡真野町の幹線道路	佐渡郡新穂村の幹線道路
態 様	夕暮れ時幹線道路歩行中	夕食後幹線道路歩行中
生 活	単身寮生活	単身寮生活
犯行者	見知らぬ3人の男	見知らぬ2～3人の男

横田めぐみさんも自宅近くの幹線道路上から拉致された事を知った時、大澤孝司さんの
拉致疑惑が地元巻町で大きく膨らんだ。

あなたも 拉致疑惑の現場に行ってみませんか。法律家も一緒です。

1 日目 : 東京 新潟 (1)新潟市内の横田めぐみさん拉致現場現地調査

(2)新潟港万景号入港中であれば、これを見る。

フェリーで佐渡島に渡る。

(3)真野湾のホテルで1泊。(夕食懇親会)

2 日目 : (4)曾我ひとみさん親子拉致現場(真野湾国府川河口)現地調査

(5)車で新穂村移動。新穂村で大澤孝司さん拉致現場現地調査

(1)横田さん救援の関係者の説明

(2)曾我ひとみさんのメッセージを受ける

(3)大澤昭一さん(大澤孝司さんのお兄さん)らの説明を受ける

申し込み先 : 北朝鮮による拉致被害者の救出にとりくむ法律家の会

事務局 斉藤・小笠原法律事務所

TEL (3253) 8138 FAX (3253) 8289

[[[[[[[[調査会ニュース Vol.89]]]]]]](2004.3.28)

一昨日尖閣諸島に不法上陸した中国人7人が強制送還されました。当初は法にのっとって送検するとしていた姿勢を政府は変えたわけですが、このニュースを聞いていて、拉致問題と結局対応は同じだなと思いました。

政府は日中関係に悪影響を与えないようにと言っていますが、悪影響を与えたのは中国であって日本ではありません。北京の大使館前での国旗焼却なども中国政府は傍観しているのですから、当然しかるべき対応をしなければなりません。日中関係に配慮というのは日本政府の国民に対する言いわけであり、本当にまともな関係を作ろうとするならこういうときは法にのっとった対応をしなければならなかったはずです。

拉致事件も、日本政府は長年分かっていたにもかかわらず放置どころか蓋をしてきました。警察でも現場の第一線で闘ってきた人々はそれこそ身を粉にして北朝鮮の工作活動と対峙してきたのですが、結局事なかれ主義が上の姿勢であるとなればその努力はむなしいものだったと言わざるを得ません。山本美保さんの件でも、まだ真相は分かっていませんが、最近色々なことから考えると山梨県警も被害者なのではないかという気がしてきます。

こういう国の姿勢の中で国民の安全はないがしろにされてきました。今回海上保安庁は巡視船を増強して対応するそうですが、これで上陸を完全に阻止するのは極めて難しいでしょう。結局現場へのツケ回しとしか思えません。拉致と同じで、国家の意思として主権侵害を許さないという姿勢を示さなければ、そのうち尖閣のみならず他の領土に対しても同じことをされるでしょうし、拉致も繰り返されるでしょう。

今回の場合は拉致のような国家犯罪とは若干異なりますが、中国政府も事実上黙認しているのですから、「そちらが止めないならODAを打ち切る」位の対応をすべきではないでしょうか。その場しのぎの対応がやがてもっと大きな不利益をもたらす現実をもっと認識すべきだと思います。今回の問題は拉致とオーバーラップして考えると憂慮せざるを得ません。(荒木和博)

[[[[[[[[調査会ニュース Vol.90]]]]]]](2004.3.30)

戦略情報研究所の設立について

荒木和博

調査会が、ということではないのですが、この4月1日から同じ場所に併設して法人組織を立ち上げることとなりました。詳細につきましては下記の関係者宛に送付した挨拶状に記した通りです。

調査会を発足した当時、私たちは一刻も早く拉致問題を解決して調査会も解散しようと考えていたのですが、1年余の活動を通してこの問題が極めて根の深い問題であることを認識するに至りました。そのため、拉致問題が解決し特定失踪者問題調査会が解散した後も長期的に安全保障を中心とした国家全体の問題に取り組むことが必要だと考え、今回の法人設立に至りました。各位にはご理解賜りますようお願い申し上げます。

なお、戦略情報研究所では希望者に対し週1回以上、不定期にメールによる情報（署名コラム）をお送りする予定です。ご興味のある方はメールにて御連絡下さい。メールのタイトルに「戦略情報研究所メール希望」とお書きの上本文にお名前、御住所、お電話番号を書いてこのアドレスにお送りいただければリストに加えます。配信は無料です。当然ですが調査会のニュースと同様個人データは外部には出しません。

（挨拶状）

平成 16 年 3 月 22 日

各位

荒木和博

ご挨拶

拝啓

各位には益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、この度法人組織「戦略情報研究所」を立上げることとなりましたので、その経緯と概要につきご報告申し上げます。

私共は昨年1月に特定失踪者問題調査会を設立し、政府未認定の拉致についての調査を行って参りましたが、1年余の調査を通じ拉致問題の根の深さを痛感して参りました。現在調査会にある失踪者のリストは400人近くに上り、そのご家族の苦しみを知るにつけ、資金や個人的な理由で活動を中止することはできないと感じております。

そのため、調査会の態勢確立を目的としてNPO法人化する検討が昨年からなされてきたのですが、NPOではその性格上参加希望者を拒むのが事実上困難であり、機密事項や失踪者のプライバシーを取扱う調査会にはそぐわないという結論に達しました。

また、この問題が安全保障を含むわが国の根幹に関わる問題であることを痛感し、広い視野で問題に取り組んでいくことの必要性に鑑み、拉致問題解決後も含め国家全体の戦略に関わる情報を収集分析し提言していく組織を法人（株式会社）として設立し運営していくことと致しました。

事務所は私の個人事務所として借りている東京都文京区のとて所（特定失踪者問題調査会と同じ）に設置します。調査会の費用の大部分は各方面からの御厚志により賄っておりますので、その御厚志を研究所で使うことは一切ありません。運営に関わる費用は戦略情報研究所の事業を通して独自に調達致します。私共も誤解を受けないよう注意して参りますが、各位におかれましてはお気づきの点がありましたらぜひご指導いただきたくお願い申し上げます。

今後戦略情報研究所では特定失踪者問題調査会の活動を支えながら、調査会の活動範囲を越える問題に長期的に取り組んで参ります。

拉致問題に端的に現れておりますが、わが国の抱える問題は極めて深刻であり、国家戦略のために情報を収集分析し、それを大胆に提示して国の道筋を作ることが必要です。こういう重要な問題は「官」に任せるのではなく「民」がなすべきことと考え、螻蛄の斧であつてもその斧を振り続ける覚悟です。何卒ご支援の程よろしくお願い申し上げます。

敬具

戦略情報研究所の概要

- 1、名称 戦略情報研究所株式会社
- 2、設立 平成 16 年 4 月 1 日
- 3、所在地 東京都文京区後楽 2-3-8 第 6 松屋ビル 401
(電話設置準備中・それまでの連絡先は荒木携帯 090-8517-9601)
- 4、役員 代表取締役 荒木和博
取締役 真鍋貞樹
取締役 杉野正治
監査役 山本卓

5、基本理念

本研究所は日本国の安全に関わる情報の収集と分析及び提言、さらには提言の実現をめざす活動をその目的とする。

本研究所の目指すのは左右の全体主義を排し、個人と共同体の調和的發展を常に追求し続ける社会である。

本研究所の活動は独善に陥らず、批判に対し謙虚に耳を傾け、正すべきは大胆に正す。

また、常に批判的精神を忘れず、必要とあらば少数派となることも恐れない。
本研究所は民間にあって公（おおやけ）に奉仕することを本務とし、政・官におもねらず、名声を追わず、利に走らず、ただ歴史にその意志を残すことを目指す。我々は身の危険を顧みずその使命を遂行するものである。

6、当面の事業内容

政府未認定拉致被害者の問題に関し特定失踪者問題調査会の活動のバックアップ。

拉致問題を含む国家全体の戦略に関わる問題についての活動

（当面次のような活動を企画する）

シンポジウム・講演会の開催

ブックレットの発行

調査委託研究

その他

以上